

令和 3 年度
事業報告書

社会福祉法人 上田明照会

目 次

ページ

1～3 法 人

4～5 甘露保育園

6～8 蓮の音こども園

9～10 ともいき宝池慈光

11～12 ともいき宝池和順

13～14 ともいきライフ月影

15～16 ともいきライフ住吉

17～18 上田明照会グループホーム

19 相談支援センター ほっと

令和3年度 社会福祉法人 上田明照会 事業報告書

1. 理事会・評議員会等の開催状況

	開催年月日	出席人数	決議事項
理事会	I 令和3年5月28日	理事6名 監事2名	①令和2年度事業報告について ②令和2年度決算報告について ③令和2年度監査報告について ④役員の改選について ⑤評議員の改選について ⑥定時評議員会の開催について ⑦会長の職務執行状況の報告について
	II 令和3年6月14日	理事6名 監事2名	①理事及び監事就任の承諾について ②理事長（会長）の選出について
	III 令和3年11月9日 【書面決議】	理事6名 監事2名	①令和3年度第一次補正予算について ②預り金管理規程について ③会長の職務執行状況の報告について
	IV 令和4年1月25日	理事6名 監事2名	①給与規則等の変更について
	V 令和4年3月10日 【書面決議】	理事6名 監事2名	①令和3年度第二次補正予算について ②令和4年度事業計画について ③令和4年度当初予算について ④給与規則等の変更について ⑤施設長の異動について
評議員会	I 令和3年6月14日 【定時評議員会】	評議員7名 理事6名 監事2名	①令和2年度事業報告について ②令和2年度決算報告について ③令和2年度監査報告について ④役員の改選について ⑤評議員の改選について
	II 令和3年11月17日 【書面決議】	評議員7名 理事6名 監事2名	①令和3年度第一次補正予算について ②預り金管理規程について
	III 令和4年3月18日 【書面決議】	評議員7名 理事6名 監事2名	①令和3年度第二次補正予算について ②令和4年度事業計画について ③令和4年度当初予算について ④給与規則等の変更について ⑤施設長の異動について

[監事監査] 令和3年5月27日 令和2年度 監査実施

[評議員選任・解任委員会] 令和3年6月14日 評議員の選任について

令和3年度の理事会及び評議員会の開催方法については、新型コロナウイルス感染症の感染状況を都度踏まえながら、短時間での集合開催または書面決議にて開催した。

2. 役員（理事）の任期満了及び就任

○任期満了

武捨 幸雄 田口 真司

○就任

塚田 昌志 白鳥 文明

3. 令和3年度 法人重点項目の取り組みについて（報告）

① 第三者評価の受審結果及び自己評価報告結果を活かしたサービスの質の向上に努める

コロナ禍でもあり、蓮の音こども園の第三者評価は見送ることとした。今年度についても各事業所自己評価に取り組み、結果を分析し取り組むべき課題を各事業所で取り上げ、改善に努めてきた（報告書あり）。事業所種別毎の固有の課題を明確にし、福祉サービス利用児者の立場に立って、質の向上に向けた体制作り、安心・安全なサービス提供を目指し、利用児者の生活環境・利用環境整備について、より一層意識を向けていくことの必要性を改めて共有した。今年度の反省・改善事項を次年度に引き継ぎ、適切かつ良質なサービス提供については今後も委員会を中心に検討を進めていく。一法人多施設の強みを活かし、互いに切磋琢磨し、信頼性の高い効果的な運営について検討していく。

② 次世代育成や組織活性化のための取り組み

新型コロナウイルス感染症防止対策の為、令和2年度は多くの研修を中止せざるを得なかった。今年度はZ o o mでのオンライン開催を日常的に取り入れ、人材育成・研修委員会を中心に階層別研修に取り組んできた。特に新任職員研修に重きを置き、令和元年、2年の研修該当者の未実施であったフォロー研修を含めて企画運営した。各事業所内の内部研修、外部研修と並行して、法人全体の階層別研修を定期的に行う事で、法人内部の同僚性意識の向上が図れ、各事業所における支援への取り組みにも良い影響を与えるものとする。全職員一人ひとりの働き方についても、日々の業務に邁進するばかりでなく、それぞれの職位に対する目標管理が必要であり、言語化・意識化する事が実践に繋がるが、その部分の取り組みについては課題として残った。

人材確保については、求人情報サイトからの問い合わせ等に随時対応し、採用試験についても適宜行った。年々学卒者の動きが早まっており、なおかつ優秀な人材確保の為には、時期を逸しないことが重要である。ホームページの活用及び採用側のプレゼンテーション能力も評価される時代において、情報のアップデートや養成校との良好な関係性の確保に努めた。

③ 委員会活動の充実により、法人の円滑運営に努める

◎会議・・・各会議は年間計画に基づき実施した。

①法人経営会議（月1回開催）・・・新理事2名を含め、理事6名構成で実施した。

法人全体の経営全般（理事会・評議員会の開催、各種規程の変更、財務・報酬管理、職員処遇改善、職員採用、人事編成、コロナ対策、利用児者についての情報交換及び調整、建物設備関連等々）を話題とし、管理者会議の上層会議として、法人としての方針を定め意思統一を図った。

②法人管理者会議（月1回開催）

各事業所の職務・サービスに関する事、行事、利用児者に関する特記事項、その他必要事項について情報を共有し、法人としての管理体制の標準化に努めた。

◎委員会・・・各委員会は年間計画に基づき実施した。

①人材育成・研修委員会（法人事例検討会含む）

研修：6講座開催（集合研修1回、Z o o m開催5回）

事例検討会及びリーダー研修：各事業所にて開催

②要望・リスク・事故防止委員会（年4回開催）

定例会：4回開催

メンタルヘルス研修：講師/飯島恵道氏（Z o o m開催）

虐待防止研修：各事業所にて開催

③業務管理・サービス管理委員会（第三者自己評価）

業務管理委員会：2回開催

サービス管理委員会：6回開催

④保健管理・食事サービス委員会（年3回開催）

保健管理委員会：4回開催

食事サービス委員会：4回開催

その他、コロナ関連を含む調整が必要な際には、適宜検討し法人内の周知を図った。

⑤広報・情報処理管理委員会

7回開催

ホームページリニューアル作業については、各事業所より選抜メンバーを加え分科会を実施し、令和4年1月28日に新しいホームページに切り替えた。

⑥フードドライブ委員会

当法人から上田市社会福祉協議会への実施主体移行を目指し、令和2年度末より段階的に取り組んできた。令和3年7月には、当初予定していたよりもスムーズに社会福祉協議会へ運営拠点を移す事ができた。地域における公益的な取り組みの中心となっていたフードドライブであったが、この取り組み以外の地域における貢献活動については、コロナ禍においても実現可能な時期と内容（児童施設における教室開催等）を考慮し取り組んだ。

まとめとして

今年度も、年間を通じて新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を大きく受け、常時緊張を余儀なくされる状況下での運営となりました。特に障害者支援施設での利用者さんには多くの制約により、大変不自由な生活をお願いしてきました。誰が感染しても不思議ではない状況ではありましたが、どの事業所もクラスターを発生させることなく、運営できたことは幸運でした。

報酬改定を含む法制度や社会環境の変化、利用児者を取り巻く状況の複雑化・多様化により、利用ニーズの増加等があります。このような中においても、当法人では丁寧に状況を把握し、地域の信頼を得るべく専門性を発揮し、柔軟な姿勢で事業に取り組んできました。

今後も関係機関や多職種連携を意識し、利用児者や地域のニーズに対応できる法人運営を目指していきます。

令和3年度 甘露保育園 事業報告書

1. 施設の構成 定員 90名

《職員》 園長 主査 主任 保育士 看護師 栄養士 調理員等

2. 月別開園日数及び初日在籍人員

月	開園日数	在籍園児数				合計
		4歳以上児	3歳児	3歳未満児	0歳児	
4	25	51	21	33	3	108
5	23	51	21	34	3	109
6	26	51	21	34	4	110
7	25	51	21	34	5	111
8	22	51	21	36	6	114
9	24	51	22	36	6	115
10	26	51	22	36	7	116
11	24	51	22	36	7	116
12	24	51	22	36	7	116
1	23	51	22	35	7	115
2	22	51	22	35	7	115
3	26	51	22	35	7	115
計	290	612	259	420	69	1,360

市町村別内訳 上田市 1,360人

3. 年間行事等実施状況

月	内容
4	入園式・花見散歩・家庭訪問→代替で個別懇談を実施
5	花まつり
6	交通安全教室・保育参観(幼児組)・プール開き・みそづくり体験(年長) 保護者会作業
7	七夕まつり・夏まつり・ピアノ、バイオリンコンサート(地域交流事業)→中止
8	魂まつり・1期終業式・保育参観試食会(2歳児)→中止
10	運動会(クラス毎実施)・合同避難訓練・みそ開き(年長)・秋の遠足→中止
11	感謝訪問(勤労感謝)・保育参観(幼児組)→中止・講演会(地域交流事業)→中止
12	成道会・成道会お祝い発表会・防犯訓練・クリスマス会・2期終業式 もちつき会→中止
1	ものづくり・個別懇談会(幼児組)・どんど焼き→中止
2	豆まき会・涅槃会・新入児連絡会(2回)・懇談会(2歳児)
3	ひな祭り・お別れ会・懇談懇親会(年長)・3期終業式・卒園式

毎月・・・誕生会・避難訓練・身体測定

※8月～11月・・・保育参加 延べ人数47名

感染レベルの高かった時期は中止とした

4. 職員研修

県及び市保育園連盟主催、私立保育園協会主催各種研修会はコロナ禍の影響で中止や人数を制限して実施またはオンラインでの研修となった。

また、オンライン研修(ホイクテラス)を導入し、職員が時間を見つけ計画的に園内で受講できる体制を作った。研修会場等への移動がないことや時間を有効活用できることは職員の負担軽減にもつながっている。

5. 施設整備

AI検温器、避難用散歩車

6. 援助結果及び課題

① 保育・・・子どもの主体性を尊重する保育の充実

I あそびの選択や継続を考えた環境構成について工夫する

子どもの主体性の尊重については、今年度も継続して取り組んでいる。”子どもは自ら学び、成長していく存在である”との認識を持ち、子どもが抱く興味・関心に基づく「やってみよう」の意欲を最大限に尊重できるように努めている。子どもの意欲を尊重しつつも、その年代に経験してほしい実体験や見聞を広げるための働きかけについては保育者側が常に準備しておく必要がある。安心・安全を確保しながら自由度を高め、なおかつ成長を促す環境づくりは難しいが園児と職員と一緒に試行錯誤しながらも保育を進めていけるようにしていく。コロナ禍における保育も3年が経過したが、すべてに制限をかけるのではなく、年代に応じた経験してほしい行事や保育に対して、どうすれば可能になるのか職員同士が創意工夫しながら必要な保育の提供に努めていく。

II インクルーシブ保育(ともに育ち合う)

各クラスから報告される「配慮が必要な園児への共通理解」について、全職員で情報共有した。配慮点に基づき意識的な関わりを継続するなかで発達を追いそれぞれの成長が確認できるが、クラスの壁を越える関りはまだ希薄である。職員にはすべての園児が”かんろっこ”という意識づけも必要になっている。その他確定診断がある園児については、個別支援計画を導入し年3回保護者と確認・共有をしている。蓮の音こども園の園児との交流は、年長クラスに同年齢の子どもたちがクラスの仲間として年間を通して同じ活動を積み上げてきた。今年度も運動会・成道会お祝い発表会にともに参加しクラスの一員として溶け込み、子ども同士も同じ仲間という意識が芽生えていたように感じた。こういった取り組みは、必ず園児たちの記憶に残り続け良い影響を与えると考える。保育園児にとって蓮の音こども園児が特別な存在(お客さん)ではなく、一緒にいるのが当たり前になるように今後も共生社会の構築を目指す取り組みは継続していく。

② 家族支援・・・家族連携と保護者支援の充実

様々なバックボーンを持つ園児一人ひとりを中心に置きながら、家族との関係性も良好に信頼関係を築けるよう努めた。当園での幼児組保護者を対象とした「保育参加」は4年目となり、今年度は延べ47名の参加があった。保護者は企画の意図に賛同して参加される方がほとんどではあるが、新型コロナウイルスの感染対策・警戒に伴い実施期間が短くなってしまい参加数としては前年度を下回ってしまった。保育の現場を実際に見て・感じてもらうことはご家族との関係構築に有益であるため今後も可能な方法で継続していく。

③ 食育・・・食を通じた保育

コロナ禍において、和気あいあいとした給食場面でのやり取りが今年度も制限された。安全で健康に育っていく主体として機能向上とともに楽しむ食体験を積むための工夫とアレルギー等の除去食や窒息・誤嚥防止のための食事提供方法の煩雑化により、業務にあたる職員は毎回緊張を強いられる状況が続いている。畑作業は園庭のみで行うようにし、野菜が育つ過程において子どもたちから湧き出る疑問を子どもとともに考え試すなかで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)のうちの数量、図形、文字への関心の学びが含まれているが、栽培にあたり生育・管理方法について職員が知識を深める必要があった。

④ 地域との関わり・・・心温まる優しい交流

新型コロナウイルスの影響により、予定していた行事の企画実施が困難であった。年間を通じて、おもちゃ図書館3回、かんかん広場4回のみ開催に留まった。園開放の機会が奪われることで家族の保育園選びの選択肢が減ってしまうという影響があり、入園申請前に個別で園見学の対応をしたが、今後どのような企画であれば地域との交流が継続できるのか、地域の子育て支援を行う保育所として地域に向けて何をどのように発信していけるのか課題(ホームページ・ブログの活用等)は残ったままである。

～全体を通して～

今年度も新型コロナウイルス対応に追われた1年であった。短期間で変わる情報に翻弄されながらも基本的な感染防止対策の徹底と確認を行いながら、安全に支障なく保育運営ができたことは職員一人ひとりの努力の賜物であった。一方で、感染対策を理由に中止・縮小せざるを得なかったことも多くある。今このような状況下であるが、改めて幼児教育はいかにあるべきか、コロナ禍においても大切にすべきことは何か、保育活動は目指すべき目的に向かっているのかを全保育士と確認し合いながら、コロナ禍でもプラスに転じることができるチームの形成を今後も目指していく。

令和3年度 蓮の音こども園 事業報告書

1. 施設の構成 定員 30名

《職員》 園長 主任・児童発達支援管理責任者 主任 保育士・児童指導員
管理栄養士 看護師 調理員

2. 入園児地区別利用契約人員及び療育日数

市町村	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	35	35	35	35	35	37	37	37	37	37	37	37	434
青木村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
その他	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
合計	38	38	38	38	38	40	40	40	40	40	40	40	470
実開園日数	23	21	26	24	21	23	26	24	24	19	19	19	269

3. 入退園の状況

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入園	15	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	17
退園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	18
退園理由	保育園等他事業所移行 4名 就学 14名												

4. 通園車走行状況

1号車（セレナ）5,730km

2号車（ステップワゴン～6/11）229km → セレナ（財団助成6/14～）5,826km

5. 年間行事実施状況 ※コロナ感染症により、中止・延期・縮小等実施方法を変更。

月	内 容	月	内 容
4	入園式 親子遠足	10	合同避難訓練 きょうだい児交流会 運動会(クラス別実施)
5	運動会(10月に延期)	11	どろんこ祭(クラス別) 七五三(縮小)
	花まつり(縮小) 家庭訪問		クリスマス会(クラス別)
6	家族参観(きりん組・らいおん組)	12	上田ライオンズクラブ(ツリー飾りつけ)
	プール活動(縮小)・防犯訓練		成道会(縮小)
7	七夕(縮小)	1	ものづくり 防犯訓練
	家族参観(うさぎ組)		ももたろう展 家族参観(中止)
8	魂まつり(縮小)	2	豆まき 涅槃会(縮小) 家族参観(中止)
			バイキング給食(クラス別)
9	親子遠足(クラス別)	3	ひな祭り(クラス別) お楽しみ会(中止)
	避難訓練：毎月(4月中止)		卒園式

6. 職員研修等

法人内研修：チームリーダー研修、虐待防止・メンタルヘルス研修 等

施設内研修：事例検討会・障害者虐待防止権利擁護伝達研修

施設外研修：上田地域定住自立圏保育士研修・全国児童発達支援協議会・信州大学子どものこころ診療部セミナー・CCAP子どもの虐待防止セミナー・サビ児管更新研修・苦情対応システム研修会等をWEBセミナーで受講

7. 施設整備・物品購入

- ・日本財団助成事業 日産セレナ 1台
- ・遊具「あすれちつく」の設置（リノベーション）
- ・給食管理ソフト「わんぱくランチ」

8. 療育援助結果及び課題

① 発達支援

令和3年度は全園児の62.5%が発達障害の確定診断を持ち、未診断の児童2.5%を含めると、65.0%の園児が特性に配慮した支援を必要とした。その他の35.0%の中には、診断名も幅広く、医療的ケアの必要な子どもが4名含まれている。指針となる「児童発達支援ガイドライン」の5領域を基に、子どもたちが豊かな経験ができるよう生活や遊びを主体とした個別やグループ活動、クラス集団の中で段階的に活動を行ってきた。小集団では安定して取り組める園児が多く、成功体験を積み重ねながらステップアップすることで、自信につながる成果が見られた。改めて環境調整の必要性を実感することができた。活動内容については、子どもの思いに気づき強みを生かすプログラムが実践できるよう、更に保育的な視点を取り入れ工夫していく必要がある。また、甘露保育園との子ども達との関わりにおいては、年々積み上げられているため、今後も自然体で関わり合えるようにしていきたい。また、医療的ケアの必要な園児が生活の経験を広げるために看護師と連携して取り組むことができたことは、チーム支援として専門的な機能が果たせていると感じる。移行支援については、地域の実情が様々であることから、段階的に体験できるよう早めに進めていくことが課題となる。

② 家族支援

不安を抱えた保護者の思いを受け止め具体的な関わりを提案し、保護者自身ができる状況の中で成功体験に繋がる支援に取り組んできた。学習会としては、ペアレントトレーニングを園独自の4回シリーズで実施することができた。同じ悩みを持つ保護者同士の関わりは、様々な情報共有の場となり、お互いの思いに共感しながら子育てへの後押しになっていく。今後も参加者を広げるための工夫をしながら継続して深めていきたい。また、個別性が高い家庭支援については、関係機関と連携することで家庭生活を見守り、安心して過ごせるように支援している。家族支援の一環としてのきょうだい児交流は、きょうだい児が保護者との時間を楽しむ機会となり継続の意義を感じる。

③ 地域生活支援

外部機関との連携は感染症に留意しながら可能な範囲で対応した。支援を必要としている子どもの療育体験【のびのび教室】は中止が多くなってしまったが、低年齢児の希望が多く関係機関と調整を特に必要とした。地域生活への移行支援や当園を研修の場とし、支援者の資質向上及び双方の情報交換の場としての役割を果たせるよう、発達支援の中核的事業所として児童発達支援センターの役割を推進できるよう努めていきたい。

9. 療育サービス等の利用状況について（※コロナウイルス感染防止のため中止もあり）

① おもちゃ図書館

- ・甘露保育園遊戯室 年5回開催（9月3月中止）
⇒ 来館者 253名 ボランティア のべ24名
- ・青木村図書館への派遣 ⇒ 今年度も中止

② 療育相談 … S T外来相談/3回 P T外来相談/1回

③ あそび虫 … 年5回開催（8月1月3月中止） 子ども47名 大人83名

④ のびのび教室 … 年16回開催（10回中止） 参加児数 のべ92名

～全体を通して～

今年度も感染症対策を徹底し安心して過ごせるよう努めてきた。行事や研修会等は感染拡大時においては中止せざるを得ないこともあったが、概ね工夫して取り組むことができた。今後も見通しを持ちながら可能な限り豊かな経験ができるよう検討していく。

今年度は年長児が14名在籍していたため、例年より早い段階で見学や体験を進めてきたが、悩みながら決断するケースもあった。近年、年長児の在籍が多い傾向にあるため保護者の意向を尊重しながら発達状況の共有を丁寧に行い、就学への準備を進めていきたい。

子どもの特性や家族の状況も多様化しており、より一層、専門性と傾聴の姿勢を意識して安心と信頼される支援を目標としていく。

令和3年度 保育所等訪問支援 事業報告書

1. 構成
 〈職員〉 管理者 児童発達支援管理責任者 訪問支援員

2. 訪問先
 上田市公立保育園（3） 上田市私立保育園（1）
 上田市私立幼稚園（2） 長和町公立保育園（1） 計 7ヶ所・7名

3. 支援実施日数及び実施人員 ※公立保育園は上田市と長和町。昨年度からの継続は2園。

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
公立保育園	0	1	1	2	0	0	1	3	3	1	1	2	15
認定こども園	0	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	5
私立幼稚園	0	0	2	2	0	1	2	1	2	1	0	0	11
													<u>計31回</u>

4. 訪問支援結果と課題

① 地域における子どもの発達支援

今年度もコロナの影響で、訪問がキャンセルになることもあった。訪問事業は保護者の不安を軽減し園全体の方向性を定めていくことや、対象児が安心して「地域で育つ」ことを目的としている。対象児が好きな遊びや活動を十分に楽しみ、安心感を得て集団参加に気持ちを向けていくよう、保育士と一緒に「できた」「楽しかった」という経験の積み重ねが基になる。そのため生活の見通しを持つための視覚支援方法や声かけのタイミング、環境設定、子どもとの距離感等、子どもへの直接支援を行いながら場面ごとに提案してきた。保育士が成功体験を積み重ねることにより、自信を持って子どもと関わっていけるよう留意した。

② 地域支援機能強化と関係機関との連携

保育現場の環境は様々であり、各園の方針を尊重しつつ現状を捉え、具体的な支援の提案をしてきた。対象児以外にも発達の緩やかな園児が複数在籍している園が多くあり、主担任と加配保育士の連携は欠かせない。中には30名の園児に対して1人担任の園もあり、園全体のサポートや連携の必要性を強く感じた。複数担任でも連携不足やクラスの方向性が共有できていない園もあり、保育士がどこまで関わるのが良いのか迷い戸惑う様子は各園共通の悩みであった。クラス活動についてはその場から離れ個別に対応することが「個別支援」と捉え、思いに寄り添いすぎて子どもが主導となっている関係も見受けられた。集団参加のタイミングはその場で直接的に支援し、その後のカンファレンスでは家庭や保育士の思いに添って具体的な提案と、次回までの課題に対しての取り組みを書面で示すようにした。定期的なモニタリングでは関係機関も同席することから対象児の成長をともに喜び合うことができた。保育士や保護者自身の成功体験を通して発達支援についての理解が得られることは、子どもの育ちと家族の安定につながっていく。

③ 専門性の向上

訪問依頼は主に母子保健や行政を通じて寄せられることが多い。子ども集団の中で特性が強いと個別対応になるため、特に主担任1人のクラスでは、集団との調整のためにどのような支援を提案すれば良いか、実際に迷ってしまう状況があった。まずは対象児の思いに寄り添い共感し、安心・安全を最優先に対象児が誤学習することがないよう個別対応する場面と無理なく集団参加をする場面を分けて取り組む支援を伝えた。訪問先の園が見通しを持つようになると改善に繋がりはじめた。対象児やご家族が地域で安心して過ごせるための関係者との連携強化は今後も地域で暮らしていく子どもたちの包括的な支援の一部であると感じる。後方支援として、私たちは訪問先の状況をしっかり把握し、どのような環境下でも園ができる範囲で取り組める総合的な支援の提供に努めていく必要を感じた。

◎ 考察・まとめ

訪問先の環境(人的・物理的)は多種多様であり、発達支援についての理解や取り組みも異なった。その中でも園側の体制が整い特性に配慮した支援ができた園では、対象児も保育集団に順応し見通しを持ちながら生活することに繋がりがやすい。全体的な傾向として、どの園でも対象児以外にも支援が必要な園児が複数在籍することから、その点も踏まえて個別支援と併せてクラス集団として取り組める支援についても提案し、クラス全体の底上げができるよう留意した。また継続することの意義を感じるため、次年度も園全体で支援できるようお願いすると終結時には園として支援のバリエーションを深めていきたいという声も聞かれ、より安定して集団生活を送れることのきっかけ作りができたと感じる。今後も訪問支援が心の拠り所となるよう、支援を提供していきたい。改めて保護者や保育士の訪問支援に対する期待感が大きいと感じた。

令和3年度 と も い き 宝 池 慈 光 事 業 報 告 書

1. 事業所の構成 生活介護事業 定員 20名 契約利用者数 27名
 《職員》 管理者 サービス管理責任者 主任支援員 支援員 看護師

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
上田市	21	21	21	21	22	22	22	22	23	23	23	21	262
東御市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
千曲市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
坂城町	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
合計	26	26	26	26	27	27	27	27	28	28	28	26	322
延べ人数	363	354	424	417	335	363	449	439	446	362	333	417	4,702
開所日数	25	23	26	25	22	24	26	24	24	23	22	26	290
1日平均	15	16	17	17	16	16	18	19	19	16	16	17	17
利用率	75%	80%	85%	85%	80%	80%	90%	95%	95%	80%	80%	85%	85%

3. 入退所の状況

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
入所	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	1	3
退所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2

4. 年間行事実施状況 ※コロナ感染防止対策として行事の中止・延期等あり

月	内容
4	お花見外出・誕生日会
5	健康診断・誕生日会・花まつり
6	誕生日会
7	誕生日会・夏祭り・実地指導監査
8	魂まつり・集団指導
9	内科検診・事業団健診・誕生日会
10	誕生日会・わっしょいわっしょい祭り・虐待防止研修
11	誕生日会・福祉研究大会・メンタルヘルス研修
12	忘年会・誕生日会
1	新年会・誕生日会
2	誕生日会・豆まき・涅槃会
3	慰労会・誕生日会

5. 重点目標の反省

◎ 「個別支援計画の充実と利用者が自己選択できる機会と場所の提供」

相談支援事業と連携しながら、サービス等利用計画を基に個別支援計画の作成を行い、利用者の自己実現に向けての検討を重ね、支援方法の統一や方向性がぶれないように努めた。自閉症セミナーの参加を通じて、外部からの意見は事業所内では気付きにくい視点や考え方があり、視野を広げる貴重なものとなった。

利用者が地域の中で活躍できる機会として「気まぐれ屋」の活動を行っているが、コロナ禍の影響により、地域と関わりを持つことが難しかった。店員として活動に参加する利用者には目標を持って活動を行い、社会参加の機会を提供できるようにしてきた。活動メニューを設定したことにより活動内容がより分かりやすくなったため、利用者にとって選択の機会が増え参加する意欲が高まるという効果があった。

◎ 「関係機関連携における家族支援の充実」

利用者を取り巻く環境の変化は刻々と進んでいる状況である。行政との連携はもちろんのこと、相談支援センターや介護サービス事業所担当者との連携にて、セーフティネットが構築され状況に合わせた適切なサービスへ繋ぐことができている。当事業所においても、同様なケースがこの数年で予測される。関係機関との連携により適切なサービスが提供され安心して生活ができる準備と支援内容を家族と話し合いを進め、ご本人が新しい生活に向けた希望や展望を持てるように経験を積み重ねることが必要になる。

◎ 「支援記録の充実と効果的な活用」

利用者がそれぞれに抱えている課題や支援経過を職員間で共有・検証していくことが根拠のある支援につながる。そのためのツールとして支援記録は非常に重要なものとなる。支援経過記録の蓄積と記録内容の質を上げていくことで、より根拠ある支援を確立し、利用者の思いや願いに寄り添う機会をさらに増やしていく。

6. 利用相談

上田養護学校高等部より卒業後の進路相談、実習の受け入れを実施した。また、他の事業所からの移行希望者2名に対して、相談・見学・実習をコロナ禍ではあったが感染防止対策を徹底しながら実施し、新規利用に結びつく結果となった。また、慈光利用者及びそのご家族の高齢化も顕著であり、生活環境及び身体的な変化に伴い今後入所施設等へ意向を検討するケースが増えることは想定できる。そのために、事業所間の情報共有を密に行い、スムーズな移行ができる体制を整えていきたい。

7. 健康・安全

各種マニュアル（保健・危機管理・要望等解決・虐待防止）の見直しと、特に感染症予防対策（ノロウイルス・インフルエンザ・新型コロナウイルス等）、BCP（事業継続計画）に力を入れた。新型コロナウイルス対策は新田での合同会議を継続的にを行い、新田事業所としてコロナ感染症対策を統一した考えのもとで行ってきた。また、事業所のみならず、法人内外での連携した対応も求められる。今後も感染予防の啓蒙と備えを強化し、不測の事態に対応できるよう、職員の動きと入所施設への応援体制構築を進める。

8. 職員研修

長野県及び長野県知的障がい福祉協会主催の研修会、法人内研修（リーダー研修）、事業所内研修（リスク研修・虐待防止研修・苦情対応システム研修・感染症対応研修）、長野県が主催している「障がい者虐待防止・権利擁護研修」へ参加した。参加した職員は伝達研修を行い、個人から全体へ知識を広げるとともに、プレゼン力を養う機会となった。

新型コロナウイルスの影響は研修の開催方法を変え、WEBでの開催が主流になってきている。参加職員が充実した研修となるようにネットワーク環境の整備とオンライン開催に慣れていく必要がある。

令和3年度 ともいき宝池和順 事業報告書

1. 施設の構成 生活介護事業 定員 30名
《職員》 所 長 サービス管理責任者 主任支援員 支援員 看護師 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
上田市	31	31	31	31	31	30	30	30	30	30	30	30	365
千曲市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
東御市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
坂城町	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
青木村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	37	37	37	37	37	36	36	36	36	36	36	36	437
延べ数	680	630	728	683	585	657	705	655	667	606	565	671	7,832
開設日数	25	23	26	25	22	24	26	24	24	23	22	26	290

3. 入退所の状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

4. 年間行事実施状況 ※コロナ感染防止対策として行事の中止・延期等あり

月	内 容	月	内 容
4	春のお茶会	10	秋のお茶会・わっしょいわっしょい祭り
5	希望外出	11	新田文化祭
6	希望外出	12	利用者忘年会
7		1	新年のお茶会（初詣）
8	魂まつり	2	涅槃会
9	希望外出・内科検診・事業団検診	3	年度末慰労会

5. 職員研修

長野県及び県知的障がい福祉協会主催各種研修会（ZOOM）、法人内研修、事業所内研修

6. 生産活動種目及び実績

① 作業種目

受託生産	工業用紙袋加工作業	《鈴与マタイ(株)》
	箱折り作業	《丸福(株)、コムパック(株)》
	土産用菓子箱詰め作業	《豊上東山観光(株)》
	ボール洗浄作業（ボールプール用）	《(有)モードテラ》
	小牧山霊園作業	《宗教法人願行寺》
自主生産	味遊カフェ営業、道の駅や直売所での委託販売	
	珈琲焙煎作業、クッキー製菓作業（販売・配達）	

② 作業実績

◎収入

受託作業	1,434,793 円
自主生産	14,827,334 円
合計	16,262,127 円

◎支出

作業工賃	6,263,095 円
諸経費	9,999,032 円
合計	16,262,127 円

7. 支援結果及び課題 (『 』内令和3年度重点目標)

① 『コロナ禍における生産活動の開拓』

新型コロナウイルス感染症の影響で、自主生産活動である味遊カフェの営業をテイクアウトへ切り替える対応や、受託生産活動の規模縮小や受注が停止するといった厳しい事態が生じた。カフェの営業については、年間で280日中通常に営業できた日数が109日、テイクアウト営業が171日とテイクアウトの期間が多くなった。通常営業ができないことにより利用者の作業内容も変化したため、混乱してしまう場面もあった。昨年に引き続き生産活動開拓や新たな作業種への取り組みの話を前に進め、利用者の工賃がアップできるように支援の展開を図っていく。また、サステイナブルな取り組みとして、プラスチック製品から木製品への転換や袋類の有料化を行った。さらに、社会情勢が不安定となっているため、原材料の価格高騰も発生しており、対応方法を検討していかななくてはならない。

② 『ご家族及び地域との連携』

昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響により地域とのイベントとして開催していた「てとてと市」やボランティアとの交流など外部の方との関わる行事のほとんどを中止せざるを得ない状況となった。また、家族会である宝池親の会や和順部会においても「総会」「研修会」「懇親会」などの行事が中止となった。役員会等少人数での集会は実施されたが、今後の家族会が継続できるように開催方法及び活動内容を見直していかなければならない。

8. リスク・健康・安全管理

利用者の日々の通所経路については、必要に応じて同行を実施し、安全に事業所に通えるよう支援に取り組んだ。また、今年度は利用者が帰所時に歩道の段差に躓いて転倒し怪我をする事案が発生した。利用者への対応にあわせて、早急に歩道を管理している県に連絡を入れ、改善の要望を出した。

自然災害への対応については、豪雨や台風等の気象情報を的確に入手し、適切な対応とご家族の協力をいただきながら、より安全な通所支援と事業所運営に心掛けてきた。避難確保計画と非常災害対策を作成し、上田市危機管理防災課へ提出した。

新田会議を定期的で開催し、情報共有の下、感染症対策対応を統一し、徹底的な感染予防対策を進めてきた。

各種健康診断を実施し、その結果を受けて必要に応じてご家族に受診を勧めるようにした。

9. その他

地域に開かれた事業所をめざし、新規利用者の開拓の促進を積極的に実施してきた結果、次年度より新たに1名の方が利用されることとなった。また、作業活動においても新型コロナウイルス感染症の影響で作業種が減少してしまったが、新規の自主生産活動を模索していく。さらに、各関係機関との連携も積極的に実施していく。

令和3年度 ともしきライフ 月影 事業報告書

1. 施設の構成 障害者支援施設 (生活介護) 定員 60 名
 (施設入所支援) 定員 50 名
 (短期入所) 定員 6 名

《職員》 管理者 次長 主任 サービス管理責任者 リーダー 支援員
 准看護師 栄養士 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

市町村\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	24	25	279
長野市	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	83
須坂市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
飯山市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
千曲市	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
坂城町	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
小諸市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
諏訪市	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	8
原村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
松本市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
小谷村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
青木村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	67	67	67	67	67	67	67	67	66	66	67	67	802
延べ数 (生活介護)	1,164	1,215	1,258	1,338	1,306	1,295	1,342	1,283	1,289	1,267	1,128	1,327	15,212
延べ数 (施設入所支援)	1,481	1,524	1,494	1,546	1,532	1,479	1,490	1,449	1,470	1,433	1,337	1,505	17,740

3. 入退所の状況

\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
退所	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	2
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0

上段：施設入所支援 下段：生活介護（在宅）

4. 短期入所事業の状況（月別利用延べ人数）

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
成人	0	0	18	20	0	0	0	0	14	31	16	3	102
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	18	20	0	0	0	0	14	31	16	3	102

5. 実施した生産活動等支援種目

作業・・・園芸作業、農作業等

その他・・・創作活動、リハビリ支援、歩行支援、地域交流活動、手芸、調理訓練等

6. 職員研修

知障協研修・・・各種（自閉症支援、精神科領域、強度行動障がい等）セミナー、支援スタッフ部会等

法人内研修・・・専門研修、初任者研修、チームリーダー研修、要望等解決定例会、虐待防止研修等

法人外研修・・・虐待防止伝達研修、苦情システム対応研修、千曲・坂城自立支援協議会

7. 年間行事実施状況（コロナ禍において、開催方法は月当番企画で工夫する）

- 4月・・・村上保育園入園式、村上小学校入学式、坂城幼稚園入園式については参加自粛グループお花見（個別縮小）、「おもてなしの心を学ぼう」月当番企画
- 5月・・・事例検討会議①、訪問リハビリ①、季節のおやつ会、救急講習、ワクチン接種通所部説明会
- 6月・・・ともいきグループ食事会、「冷たいフルーツポンチを食べて涼もう」（月当番企画）おひさま販売会、事例検討会議②、ワクチン接種②
- 7月・・・「短冊に願いを込めて」（月当番企画）、ワクチン接種③、夕涼み会（縮小）訪問リハビリ②、内科検診①、月礼会（草刈り）、歯科検診2回
- 8月・・・あすなろグループ食事会、月影家族部会、所内事例検討会
- 9月・・・ともいきグループ食事会、「習字を楽しもう」（月当番企画）、救急講習②月例会（体育館掃除）、事業団検診、法人虐待防止研修、部会日帰り旅行（中止）
- 10月・・・おひさま販売会、月影スタンプラリー、インフルエンザ予防接種、消防立入検査「焼き芋大会」（月当番企画）、家族部会役員会（通所部会）
- 11月・・・月影販売会、訪問リハビリ③、「クレープ作り」（月当番企画）、県一般指導監査県知障協福祉研究大会、法人メンタルヘルス研修
- 12月・・・忘年会（縮小）、「ホットケーキ作り」（月当番企画）、救急講習③北信支部代表者会（WEB開催）
- 1月・・・内科検診②、ともいきグループ食事会、あおぞらグループ食事会、どんど焼き
- 2月・・・節分、あおぞらグループ食事会
- 3月・・・利用者自治会選挙、ひな祭り、「お疲れさま会」（月当番企画）、親の会役員会訪問リハビリ④、月影部会役員会、通所部説明会

8. 支援結果及び課題（『 』内、令和3年度重点目標）

◎『利用者の暮らしの充実』

今年度は、日常生活において事業所がより安心・安全と感じられる居場所づくり一環として利用者さんへの情報提供の在り方を見直し、一人ひとりの個性を尊重しながら自治会活動等において、できる限り丁寧な説明をチームとして心掛けてきた。館内放送等においては、利用者さん自らがマイクで声を出していただき、他の利用者さんへ情報を伝達する機会を設ける等の工夫をしてきた。しかしながら、食事サービス会議等への直接的な出席については、コロナ禍での密になる場面等の配慮が必要であり、今後の課題として残ることとなった。さらに、個別での買い物や外出支援、地域との各種交流等の場面で引き続き制限をかけることとなった。利用者さんのメンタルへの取り組みとして、通常のイベントとは別に月当番企画を工夫し、日々の暮らしの中で張り合いを維持できるよう配慮してきた。

◎『日中活動の充実』

利用者さんの本来持っている力に着目し、誰もが機会とチャンスを獲得できるようにチームとして取り組んだ。日々の活動において、何気ない創作活動から作品を完成させ、第三者に認められる環境として県知障協の広報部へ応募した結果、入選という結果を受けてモチベーションの維持につながる効果を得られた。利用者さんが意思を形成し、表出しながら、職員とともに本人の思いを紡ぐ支援への意識付けをグループ会議等で議論し合ってきた。まだ、ほんの一部ではあるが、成功体験を積み重ねてきている。意思決定支援や、根拠に基づく個別支援計画の充実や評価方法等が今後の課題となる。

◎『ご家族と地域との連携』

今年度もコロナウイルス禍のため、人との交流を制限せざるを得ない中、従来の地域交流や各種イベントが開催できない年となった。家族部会との交流の機会である宿泊研修や日帰り旅行も中止とした。しかし、新たに法人でホームページをリニューアルし、日々の生活の様子をブログを活用して発信する試みを開始できることとなった。利用者さんの日々のストレスを少しでも軽減すべく、電話にてご家族の方と会話できる機会を多く取り入れた。ビデオ電話等については、ご家族側の対応が難しい家庭が多く、現段階では面会と電話が主な交流方法となっている。

令和3年度 ともしきライフ住吉 事業報告書

1. 施設の構成 障害者支援施設 (生活介護) 定員 30 名
 (施設入所支援) 定員 30 名
 (短期入所) 定員 4 名

《職員》 管理者 サービス管理責任者 主任支援員 リーダー支援員 支援員
 看護師 栄養士 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

市町村\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
東御市	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
佐久市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
佐久穂町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
辰野町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
筑北村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
延べ数 (生活介護)	660	680	640	670	690	660	669	638	662	672	584	667	7,892
延べ数 (施設入所支援)	899	911	895	919	929	900	920	895	911	900	816	899	10,794

3. 入退所の状況

\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
退所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0

上段：施設入所支援 下段：生活介護（在宅）

4. 短期入所事業の状況（月別利用延べ人員）

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
成人	30	31	30	33	62	60	71	68	71	61	52	31	600
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	30	31	30	33	62	60	71	68	71	61	52	31	600

5. 実施した作業支援種目

作業・・・園芸作業、椎茸作業、農作業

その他・・・リハビリ支援、歩行支援、高齢者グループ支援、食事・おやつ作り、足浴支援
 自治会、敬老会、学校交流等の地域交流活動については、コロナウイルス感染防止対策に伴い昨年度同様中止となった。同様に利用者さんとの外出や外食についてもテイクアウト等の対応に変更し実施した。

6. 職員研修

法人内研修～初任者研修・リーダー職員研修・メンタルヘルス研修

施設内研修～事例検討会・感染症等の予防及び対応について・虐待防止研修会及び伝達研修
 施設外研修については、感染症防止対策に伴いZ o o mでの開催が主流となった。今後、集団での研修会は開催が難しい状況のためZ o o m開催が続くと考えられる。研修に参加しやすいネットワーク環境の整備とどの職員も参加できるようにオンライン研修の訓練をしていかななくてはならない。

7. 年間行事実施状況

月	内 容
4	お花見・県知障協代表者会
5	つつじ見外出（真田御屋敷公園）・神科地区社会福祉協議会総会・心電図 内科検診・眼科検診
6	バラ公園外出、宝池親の会家族会・歯科検診
7	夏祭り・婦人科健診・乳房健診・県知障協施設長研修
8	かき氷作り・防災設備点検
9	さつまいも掘り
10	住吉まつり（所内縮小）・住吉家族部会
11	紅葉狩り（小諸懐古園・びんぐし公園）・やきいもスイートポテト作り・リハビリ講習会 県知障協福祉大会
12	忘年会・住吉家族部会
1	繭玉づくり・どんど焼き
2	豆まき・県知障協代表者会・上小連協代表者会
3	住吉家族部会総会・県知障協通常総会

・月単位行事 避難訓練・誕生日会・体重血圧測定
※コロナ禍に伴い、地域との行事は中止となった。

8. 支援結果及び課題（『 』内、令和3年度重点目標）

◎『生活介護事業及び施設入所支援事業の充実』

今年度は、利用者の入退所がなかったため、最高年齢の利用者は85歳となり、80代の利用者は4名となった。また、平均障害支援区分も昨年度の5.27から5.40に変化した。より高齢化及び重度化が進んでいる状況である。特に高齢の利用者には、より安心・安全に過ごせるように環境を整備し職員がチーム一丸となり支援にあたれるよう進めていきたい。日中活動においても「生産活動」や「創作活動」を中心に利用者ができることを増やしていきけるよう職員の視点を養いマンパワーを伸ばしていきたい。今後も利用者がより満足感や達成感を得られる支援の展開を図っていく。

◎『家族への支援』

利用者の高齢化に伴いご家族の高齢化も進んできており、ご家族が兄弟姉妹や甥、姪に移行しているケースも少なくない。家族部会を実施してはいるが参加される人数は5から6名程度に留まっている状況にある。徐々にご家族との連携も薄くなってきてはいるが、関係性の維持は継続させていきたい。コロナ禍で帰省等が難しいが、定期的にご家族へ利用者の様子を連絡することや、家族会の案内等を継続していくことに意義がある。ご家族の状態変化にも注目しご家族への支援やサポートも必要になっている。行政等関係機関と連携しご家族への支援も図っていかなければならない。

◎『第三者評価と自己評価における課題の改善』

令和2年度に第三者評価を受審し課題の整理を行ってきた。課題改善に取り組んできてはいるが、全職員で統一することの難しさを改めて感じている。入所施設における変則勤務下での情報の共有方法をもう一度考えなければならない。自己評価においても法人→施設→各個人の目標の流れを再確認し全職員が課題の認識とその改善策を統一できるようにしていきたい。

◎『研修（事業所内外）への参加』

コロナ禍での研修の開催は、全体的にZ o o mでの開催が主流となってきている。なかなか慣れない研修方法ではあるが、職員全員がZ o o m使用ができるようになるとともに他の職員への伝達研修を徹底し、人前でのプレゼンができるようになっていってほしいと感じている。支援の質を上げるとともに福祉の良さ・楽しさを語る事ができる支援員を目指していく。

1. 事業所の構成

- ◎新田ホーム（定員 3名） 利用者男性 3名（上田市 2名 千曲市 1名）
 ◎和ホーム（定員 3名） 利用者女性 3名（上田市 2名 千曲市 1名）
 《職員》 ホーム長 サービス管理責任者 生活支援員 世話人

2. 利用の状況

昨年同様、入退所となる利用者がいなかったため年間通して定員6名に対して実員6名の推移となった。男性利用者の平均年齢は48歳、平均障害支援区分は3.3であった。女性の利用者については平均年齢67.3歳、平均障害支援区分は1名支援区分が上がった利用者がいたため4.3となった。高齢化による心身状況の変化やコロナ禍において実家への帰省も制限せざるを得ない状況であるが、ご家族とのつながりを継続して保てるように定期的な連絡が必要であると考えている。

3. 生活費用（毎月の一人当たりの負担額）

	新田ホーム	和ホーム	備考
生活費	35,000円	35,000円	食費・光熱水費等
家賃	18,000円	18,000円	定員割（3名）

令和3年度より家賃の振り分けを旧定員割4名から現定員割の3名に変更した。

4. 利用者の傾向

閑静な住宅地に位置しているグループホームは、交通アクセスが比較的良好な環境にありショッピングセンターも近くにあるためホーム前道路の交通量が多い。視覚に障がいのある利用者が2名生活していることもあるため、転倒や交通事故等にあわないように以前に増して安全配慮を必要としている。ホーム利用者は6名中5名が法人内の日中事業所を利用されているが、身体機能低下や認知機能低下などの高齢化に伴う課題に対応していくためには事業所とホームとの連携をさらに深めていかななくてはならない。一般就労し市内で自転車を使用して通勤している利用者については、自転車保険義務化に伴う加入継続手続きをした。令和2年度に新田ホームがより近所に移ることとなったが、新しい生活にもだいぶ慣れてきている。地域での生活をより良くしていくためには、近隣との関係性を良好にすることを大切にしていきたい。コロナ禍ではあるが、状況に合わせた関りを持って行きたい。

5. 支援結果及び課題（重点目標の反省）

『グループホームが心安らぐ場所であるよう、人間関係の調整に力を注ぐ』

本人主体の地域での生活。「暮らし」という視点で、グループホームは地域での重要な生活拠点である。買い物や外出等は職員が配慮をしながら比較的自由にさせていただいているが、今年度も新型コロナウイルス感染症感染予防対策のため、行動に制限がかかる中、利用者からの要望を職員ができる限りサポートしながら買い物の代行等を実施してきた。また、小集団であることの悩みも多くあり、人間関係の調整は悩みが尽きない。コロナ禍において制限がかかっている生活にストレスを感じていることに申し訳ない気持ちはあるが、他人を思いやる気持ちの大切さを伝えても、その思いを共有し解決に至るのは困難である。世話人や通所職員と課題の共有をして、できるだけ目配り・気配りをして関係性の改善をしていきたい。

『感染症予防・介護予防等の考え方を支援に活かしていく』

毎日の健康チェックの継続と、体調異変に対して医療機関につなげる事をスピード感を持って対応してきた。65歳を超える方が3名いる中で、日常的な健康観察を重視しつつ、利用者の主訴を傾聴し、チームで（看護師のアドバイスを頂き）対応した。食生活においては、過食防止に配慮しながら家庭的で、バランスの良い温かい料理の提供を継続している。時には、屋外での食事会等を実施することにより、生活に変化と張りを持たせられよう行事を行ってきた。コロナの感染症対策という観点では、高齢で基礎疾患を持っている利用者が複数いるため、具体的な感染症予防方法を提示し、利用者・世話人間でコロナの状況を共有し、「感染しない」行動をしたいただくために利用者との話し合いを重ねた。

『社会情勢を踏まえながら、地域との関わりによる生活の充実感を得るために、行事（お花見会・忘年会・青年会）等の地域参加をより前進させていく』

「地域参加」については、地域で開催される行事への参加を主として行ってきた。地域の方々の受け入れも好意的であったが、新型コロナウイルス感染症感染予防対策で、行事はほぼキャンセルすることとなった。地域清掃に関しては、世話人と利用者さんが参加することにより、地域の一員である認識も高める事ができたように思う。また、利用者さん自らが地域の環境整備（ゴミ拾い等）をされている姿を見かけるので、その気持ちを感謝とともに見守っていきたい。

『防火・防災・防犯における地域との連携を構築していく』

避難確保計画・非常災害対策計画を作成し上田市危機管理防災課へ提出した。防災への備えを利用者と世話人が理解して、いざという時に混乱を少なくするようにする為の対策を取ってきた。食料等の備蓄についてもローリングストックの考え方で対応している。コロナ禍で地域との連携がなかなか取りづらいところではあるが、自治会との連携は継続して関係を深めていきたい。

6. 職員の研修

長野県が毎年開催している「障がい者権利擁護・虐待防止研修会」に参加し、あわせて伝達研修も行った。また、新田ホーム・和ホームそれぞれに意見箱を設置することにより、日々の利用者の声を職員会議で共有してサービスの質・支援力向上に努めた。

7. 施設整備

グループホームの生活は利用者だけの時間帯が多くまることにより、火災が発生した際は消火活動が難しく大惨事になりかねない。和ホームではスプリンクラー設備を設置完了している。毎月実施している避難訓練でできないことは有事の際でもできることはないので、防火・防災意識を高めていくように訓練の実施をしていく。

8. 今後の展望

利用者の気持ちや思いにどう寄り添うかが大切であるため、会議等での情報や支援の在り方をきちんと共有し利用者の障がい特性を理解した上でサービスの質向上に努めていきたい。ホームが利用者の日々の生活の場であることにより、利用者同士の関係性は今後においても難しい事が予想されるが、どう折り合いをつけるか、傾聴し納得できるようにしていきたい。新型コロナウイルス感染症対策では、BCP計画（事業継続計画）策定、感染予防と実践・衛生用品や食料品の備蓄をキーワードに継続対応して参りたい。

1. 施設の構成

《職員》 管理者兼相談支援専門員 主任相談支援専門員 相談支援専門員

2. 指定障害児相談支援 指定特定相談支援事業所の実施状況

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施総件数	41	29	50	38	24	64	50	30	43	38	27	96	530
モニタリング・者	21	21	26	28	16	20	26	12	31	29	24	23	277
モニタリング・児	12	0	12	0	1	31	16	2	4	2	1	17	98
モニタリング計	33	21	38	28	17	51	42	14	35	31	25	40	375
計画作成・者	8	5	11	9	5	13	8	14	7	7	2	12	101
計画作成・児	0	3	1	1	2	0	0	2	1	0	0	44	54
計画作成計	8	8	12	10	7	13	8	16	8	7	2	56	155

3. タイムケア事業実施状況

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
2年度(人数)	0	0	1	3	1	3	1	2	3	1	3	4	22
3年度(人数)	3	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	16
比較(3-2)	3	1	0	0	0	-2	0	-1	-2	0	-2	-3	-6

4. 相談支援の継続実施

(1) 計画作成の質の向上と公正・中立性の確保

令和3年度の報酬改定により、当事業所は常勤専従の相談支援専門員の2名配置等により「機能強化型(Ⅲ)」に該当し、基本報酬が引き上げられることとなった。また、主任相談支援専門員配置加算が算定され、初回加算を始めとした、サービス等担当者会議実施加算、サービス提供時モニタリング加算等を中心に、可能な限り対応した。

また、3名の相談支援専門員が現任研修を受講した。足かけ三ヶ月に及ぶ研修期間であったが、研修では一貫して意思決定支援への配慮、質の高いケアマネジメントを含む地域を基盤としたソーシャルワークを実践できること等への取り組みが強調されていた。時代の流れとともに、求められる機能と責務を果たすべく、情報収集と地域連携を意識しての運営を目指す必要がある。

通年を通してコロナの感染レベルが高く、対面での相談に制限を受けたため、十分な聞き取りと適切な支援が展開できたかについては、現場で検証していく。

(2) 行政や基幹相談支援センター及びサービス提供事業所との連携をはかる

機能強化(Ⅲ)の算定要件でもある、基幹相談支援センター等が実施する事例検討会への参加については、当事業所の相談支援専門員は順次全員が参加した。初の試みではあったが、ストレングスマデルに基づくグループスーパービジョンの手法に基づき毎月開催された。グループメンバーとしての参加に始まり、事例提供者として参加(主任相談支援専門員においてはファシリテーター役も担った)するなど、自分自身の支援援助をスーパーバイザーの助言を得ながら客観的に捉え直し、知識・技術面及び相談支援を行う者の感情面での課題を明確にする事の重要性など、多くの学びと気づきを体感した。また、自立支援協議会・ケアマネジメント連絡会とのタイアップ事業【相談支援OJT体制整備事業】では、地域の相談支援事業所とグループスーパービジョンを行い、横の連携を深めるきっかけとなった。また、当事業所の主任相談支援専門員は、事業の企画運営に参画し、地域の相談支援体制の連携と質的向上に貢献している。しかし、コロナ感染拡大により、OJT体制整備事業は途中中止を余儀なくされた。

5. 職員研修

(1) 法人内研修：法人事例検討会、虐待防止・権利擁護伝達研修、要望等解決定例会、所内研修

(2) 法人外研修：相談支援現任研修、上小圏域ケアマネジメント連絡会、県知的障がい福祉協会(代表者会・相談支援部会・情報提供型研修・福祉大会)、日本知的障がい福祉協会(京都大会)、上小圏域自立支援協議会(療育発達専門部会研修・人材育成部会)、福井県立大学看護福祉学部/厚生労働科学研究費補助金事業・実地教育従事者養成研修 等